

市の民の声



知覧町 川床 剛士

夢！特攻平和会館の『世界遺産』登録を

南九州市の誕生に伴い市議会が運営されはじめた四年近くになります。

議員の皆様には、これまで新市発展のためにいろいろとご尽力いただきました。その御苦労に対し改めて敬意と感謝の意を表します。

現在、私は特攻平和会館において語り部として勤務させていただいております。

出撃を前にした特攻隊員たちが遺した遺書・手紙は、隊員の戦死を前に究極の心を映した無言のメッセージであり、見る

人をして感動を与えずにはおれません。

『当時の真情を後世に正しく伝え、世界恒久の平和に寄与する』という

知覧町の先輩諸氏が築かれた平和会館の理念達成に向け、この世界に類のない国の宝、文化遺産とも言える特攻の真実を、特攻隊員の心を、国内のみならず更に世界に向けて発信していくことが今私たち市民に課せられた大きな使命ではないかと考えます。

現在に生きる世界の全ての人々がこの特攻の遺産を共有し後世に引き継ぎ、戦争のない平和な社会を築くための人類の未来の財産として『知覧特攻平和会館』の『世界遺産』への登録を提案するものです。

これが実現しますと、より深い特攻慰霊の道が開けるとともに、飛躍的に知覧が有名になり、更に

に質的にも量的にも交流・来訪・観光が増大し、南九州市の地位の向上発展に大きく寄与できると考えます。

また「特攻」について、国内外に広く認知させることにもなり、戦争のない世界恒久平和実現への貢献が一層促進することとなりましょう。

南九州市にとって空前絶後と思われる平和会館の世界遺産化事業は、いろいろ困難な道程が予測されますが、市民として

市議会の皆様にはあらゆる困難を克服する大きな牽引力となつてご協力、ご活躍をいただけたら大変有難く存じます。

この夢が、平和会館の夢に始まり、知覧町、南九州市の夢を経て、更に尊い命を捧げた特攻隊員の夢として発展することをお願い、議員の皆さんとともにその実現に向けて参りたいと考えます。



平川 忠久

文化を発信できる地域に

茶畑が広がる緑の大地、朝夕に開聞岳を眺望できる長閑な暮らしは居心地が良い。これまでになく贅沢な気分になれる。将に住めば都とはこのことである。

地域の特色は何かと尋ねられたときに、農業以外には即座に思い浮かばないが、運動面では、駅伝が強くスポーツ熱が高い地域であると答えられる。ところが、文化的活動となるとこれがとすぐ

に思いつかない。しかし、よくよく考えれば、よくよく考えれば、隔年で開

催される各地区公民館の文化祭で展示される作品は、創作性の高い力作がずらりと並ぶ。竹林から掘り出したごつい根っこに磨きをかけ鉄瓶に似せた工芸品が竹の自在鉤に掛けられ、実際にお湯を沸かせてみたくなる作品。小さな鉢の中に、壮大な自然の景色を創り出す盆栽の数々。油絵、水彩画、切り絵、書の道を究めた作品等々。これらの制作活動は普段の中で目立つ存在ではないが、展示された作品から地域の方々の芸術に対する熱い思いを垣間見ることができる。

このように、地域を改めて見つめれば他にない素晴らしいものを発見できる。これらの作品を一同にいつでも見られる場があれば、鑑賞する喜びと心にゆとりや潤いをもつことができる。また、地域の活性化にもつながるのではないか。文化の香りとしき甲斐を発信できる地域であってほしい。

編集後記

つい先日まで赤い彼岸花に縁だられていた田んぼの稲もすっかり刈り取られ、実りの秋を支えた刈株が秋の深まりを感じさせている。

幸い本市は台風の被害もなく収穫の秋を迎えているが、一方では手放しで喜べない現状もある。3月の東日本大震災は未だ余震が収まらず、原発被害、風評と現実の中で、大変な苦労を現地の方はされている。

また、近畿・東海豪雨災害、海外のタイ国では大洪水で街が水没するなど、これほど「天変地異」の脅威を感じた年があったらどうか。

被災地の一日も早い復興を願うと共に、来る年は希望の年でありたい。

- (山下)
- 委員長 峯 勝
 - 副委員長 山下 つきみ
 - 委員 満留 秀昭
 - 委員 大園 秀己
 - 委員 加治佐民生
 - 委員 菊永 忠行